

中学生国際留学プログラム事業

～the fourth time～



中学生10名の帰国報告

英語検定3級を取得した中学生10名が、8月6日から19日までの2週間、カナダ・バンクーバー地域において、現地のトリニティ・ウエスタン大学での語学研修やホームステイによる生活体験、バンクーバー市内観光や小さな子ども達と交流するなどの貴重な体験を行いました。

カナダへ出発、ホームステイ

8月6日午後、生涯学習センター「ほろろ」において、出発式を行い、派遣生徒を代表してリーダーの松島壮二朗君が「現地の人に積極的に英語で話しかけて、カナダと日本の文化や暮らしの違いを学びたい」と決意表明を述べた後、南幌町を出発しました。



羽田空港を経由し、9時間の長いフライトの後、バンクー

バー空港に到着しました。

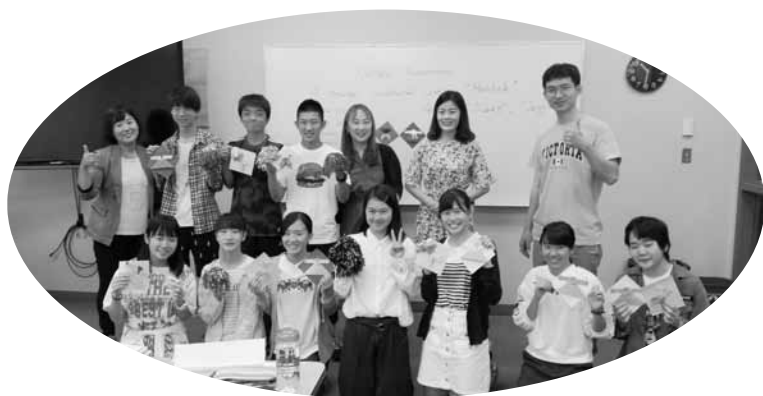
トリニティ・ウエスタン大学に着くと、生徒達は「いいよ留学プログラムが始まる」と、眠気も吹き飛んだ表情で先生の話を聞いていました。ついにホストファミリーと対面。野呂夏希さんが代表して英語で挨拶を行い、お互いに「や」と会えたという感じで笑顔を交わしながら各家庭へ向かい、ホームステイがスタートしました。

どの家庭も、生徒達が困らないように食事や洗濯などとても親切にしてくれました。また、「WELCOME

TO CANADA」と書かれた紙がベッドに置いてあり、感動した生徒もいました。

語学レッスン

基本的に平日の午前中は、大学内にあるESLI(英語を母国語としない人向けの英語教育プログラム)による語学研修を行います。今回はESLI専門のハイディ先生とアクティビティ・リーダーのミックが留学期間中、



優しく丁寧に英語を教えてくださいました。

授業初日は、ハイディ先生の話す英語が早くはじめる何を言っているかわからなかったようです。日にちが経つにつれ耳が慣れ、話していることが聞き取れ理解できるようになりました。

授業では、カナダの祝日や祝日の祝い方、家族について、お金の勉強、チームに分かれて草木でアート作品を作るなどさまざまな新しい言葉や表現、知らなかった文化の違いが出てきたりと日々新鮮さを感じたようです。

アクティビティ

平日の午後からは、お菓子作りや保育所訪問、バンクーバー観光などアクティビティの時間となります。



◆「フオートラングレー」

カナダ西部開発の起点となった博物館を見学し、史跡見学や砂金採りを体験。



◆「COOKING & BAKING」



3つのチームに分かれて先生とクッキーやゼリーを作り、合間にゲームで楽しみました。

◆「ピースアーチ・ホワイトロック」

アメリカとの国境をまたいだり、国旗ガーデンや近くの海岸を散策。大きな「白い岩」に登って記念写真を撮りました。



◆「チャイルドケアセンター訪問」

2〜4歳の子どもたちと紙飛行機や折り紙で交流し、外の公園で遊びました。子どもは驚いていました。園の先生は驚いていました。



◆「バンクーバー市内観光」

カナダ上空を4D遊覧飛行するフライオーバーカナダ、有名なスタンレーパーク、ギヤスタウンの蒸気時計、バンクーバーオリムピック聖火台、カナダ・プレイスなどを散策。観光とショッピングを楽しみました。



さよならパーティー、帰国

8月17日、12日目の午後からはパーティーの準備。まずは何をやるか、誰が、どの順番で、皆で考えて出し物の練習と確認を行いました。ホストファミリー全員が大学に集まり、19時30分さよならパーティーがスタート。習字、漢字クイズ、ピアノ演奏、ダンス、リコーダー&合唱、代表挨拶のパフォーマン스에 호스트ファミリー의 皆

さんも感動したようです。最後は修了証をもらい、穏やかで心に残るパーティーは終了しました。

帰国の日、日系移民ゆかりの地でもある港町ステイブストンに立ち寄り、100年ほど歴史のある缶詰工場を見学。通訳は必要なく、みんな聞き取ることができるようになりました。

お世話になった先生との別れを惜しみながらもカナダを後にし、帰国しました。

プログラムを終えて

「単語をもっと覚えておけば、もう少し勉強しておけばよかったと今でも後悔している」など帰国してから反省もありましたが、「これからもっと英語を勉強してグローバル化していく社会に対応できるようにしたい、この体験を生かして世界に視野を向けていきたい、もっと英語を勉強して成長してかまた外国に挑戦したい」などの感想が述べられました。

